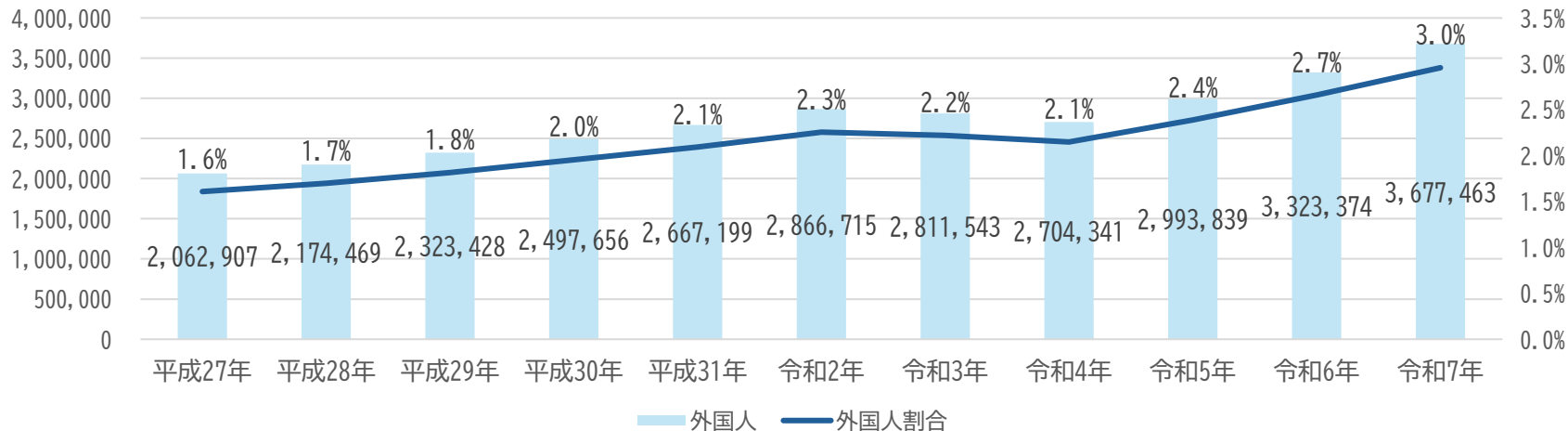




1 国の外国人人口の動向

国の外国人人口の推移

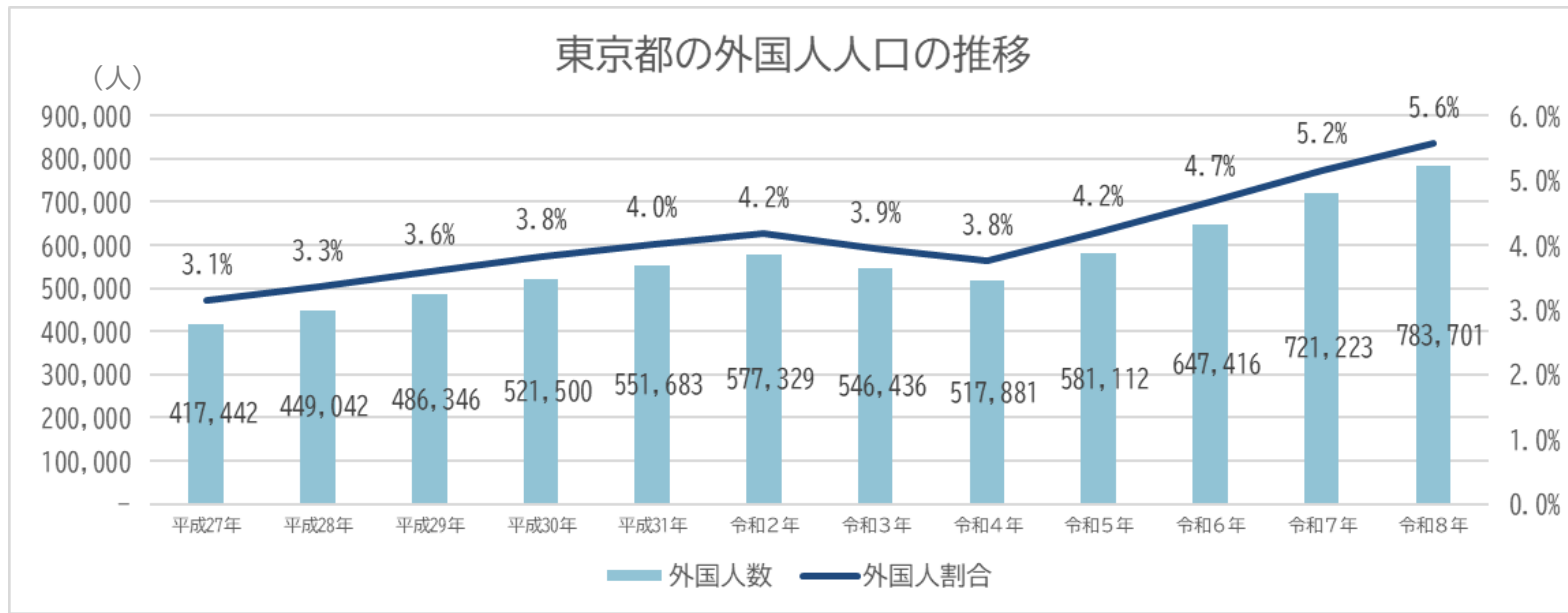


○令和7年1月1日時点の外国人人口は過去最高の367万7463人となり、前年末に比べ、**35万4,089人増加**している。

○令和7年1月1日現在の全人口に占める在留外国人の割合は、**約3.0%**となっている。



2 都の外国人人口の動向



○令和8年1月1日時点の外国人人口は78万3,701人となり、前年同月に比べ、**6万2,478人増加**している。

○令和8年1月1日現在の都の人口に占める外国人人口の割合は、**5.6%**となっている。



3 特別区の外国人人口の現状

○区部では2023年から人口が増加しており、その増加分の8割以上が外国人による人口増となっている。また、2023年から2026年にかけて、**すべての区で外国人人口は増加**している。

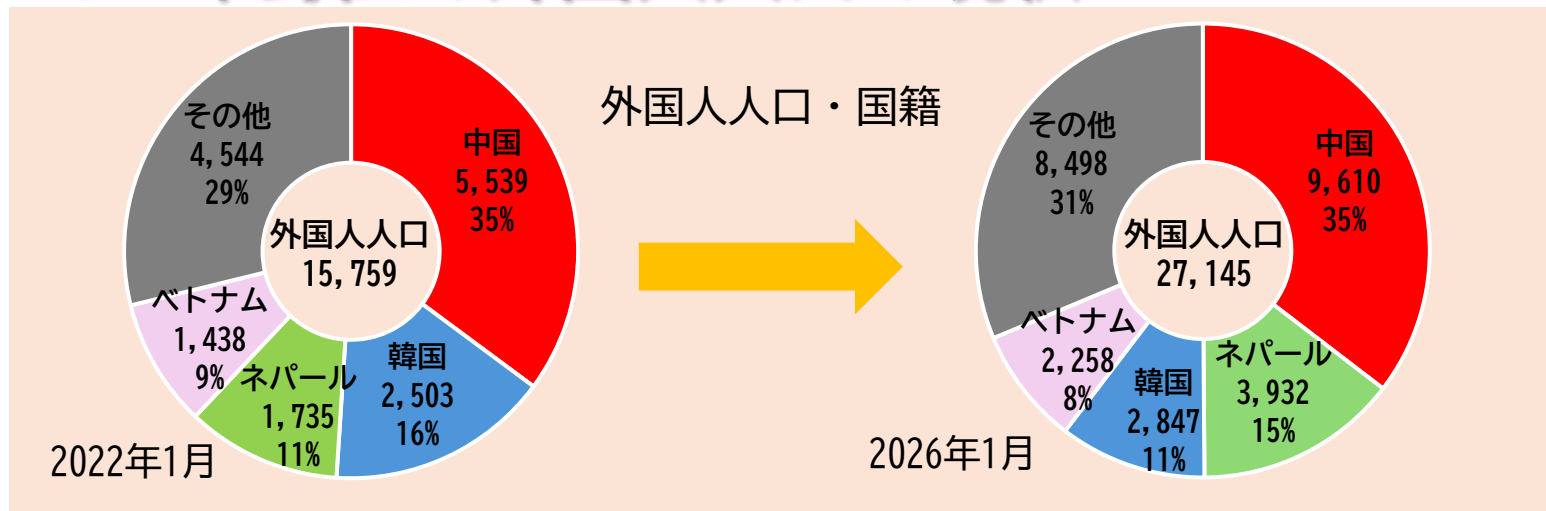
○2026年1月1日現在、外国人人口が最も多いのは江戸川区で、次いで新宿区となっている。

○2023年と2026年の**日本人人口**を比較すると、江戸川区、新宿区を含む5区で**減少**している。

○外国人は20～30代の人口が多く、日本人とは大きく異なる人口構成となっている。2025年1月1日現在、区部の外国人人口比率は6%であるが、**20～24歳では約15%**となっており、特に豊島区と新宿区では35%を超えている。

○国籍・地域別には、すべての区で中国出身者が最多となっているが、人口の増加数を見ると、例えばインド出身者が江戸川区で急増するなど、区ごとに出身地の集中傾向がみられる。

4 中野区の外国人人口の現状



○外国人人口は増加傾向であり、2026年1月時点で人口の約7.9%（特別区第7位）を占めている。

○2025年と2026年1月を比較すると、日本人人口は微減となっている。

○国籍・地域別の構成に変化がみられる。（ネパール国籍の増加が顕著）

○在留資格別では「留学」が多くなっている。

○20代（20歳～29歳）の外国人人口が多い。



5 最近の中野区における主な動向

◆中野区多文化共生推進基本方針の策定（2023年3月）

○外国人相談窓口（2024年5月）

不明なことや困りごとを母国語で相談できる窓口を開設

○オンライン日本語教室の実施

大人向けに2025年度より実施、2026年度に拡充

○日本語指導学級

2026年4月に日本語指導学級を区立小・中学校4校に新設

○（仮称）中野区多文化共生推進ネットワーク会議

多文化共生関係者間の情報共有・意見交換の場を設置
（2026年4月下旬頃第1回目を開催予定）



(参考) 令和8年度の東京都における動向

多文化共生社会の実現に向けた取組（東京都 令和8年度主要事業より）

○在住外国人への情報発信ルートづくり事業（新規）

○地域日本語教育に係る調査（新規）

○多文化キッズ支援者研修（新規）

○秩序ある多文化共生社会実現に向けた情報発信強化（新規） 等